

区分・種別	重要文化財(建造物)		
名 称	ぜんこうじやくしどう 善光寺薬師堂 1 棟 附 厨子 1 基		
所 在 地	北宇和郡鬼北町小松		
所 有 者	善光寺	管 理 団 体	
指定年月日	昭和52年6月27日		
解 説	善光寺（曹洞宗）は、宝徳3（1451）年に龍澤寺（西予市城川町）2世星文守昌せいぶんが開いたと伝えられているが、薬師堂の本尊、薬師如来像には正平13（1358）年の胎内銘があるので、そのころから寺院があったと思われる。 この薬師堂は、桁行3間、梁間3間、一重、茅葺ぼうぎで宝形造となっている。組物は禅宗様でぐみの出組で、軒は一軒疎垂木ひとのきまばらだるきである。来迎柱だいくりょう、大虹梁たいへいつか、大瓶束を備える禅宗様三間堂の建物である。建築の年代の確証はないが室町時代末期のものとされ、昭和57(1982)年の解体修理の際、内陣天井板受桁うけげたに「文明十五年」（1483年）の墨書が発見されたことでそれが裏付けられる。 なお、堂内にある厨子があわせて指定されている。この厨子は一間厨子、入母屋造いりもやづくり、板葺いたぶきで禅宗様の建造物である。 昭和55(1980)年から解体修理され、従来棧瓦葺さんがわらぶきであったものが、昭和33（1958）年以前の茅葺かやぶきに復元された。		

